

各 位

会社名 東武鉄道株式会社
 代表者名 取締役社長 根津 嘉澄
 (コード番号 9001 東証第1部)
 問合せ先 財務部課長 野口 洋輔
 (TEL. 03 - 5962 - 2183)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2018年9月26日に公表した2019年3月期第2四半期連結業績予想については本日公表の実績と差異が生じ、2019年3月期通期業績予想については最近の業績動向等を精査した結果、2018年4月27日公表の予想が変動する見通しとなったため、2019年3月期第2四半期連結累計期間および通期の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1 2019年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（2018年4月1日～2018年9月30日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 278,300	百万円 31,100	百万円 27,600	百万円 2,000	円 銭 9.47
実績数値 (B)	281,476	31,719	29,585	5,102	24.15
増減額 (B - A)	3,176	619	1,985	3,102	—
増減率 (%)	1.1	2.0	7.2	155.1	—
(参考) 前期第2四半期実績 (2018年3月期第2四半期)	282,870	34,590	32,129	23,766	111.02

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、2018年3月期第2四半期の1株当たり四半期純利益を算定しております。

2 2019年3月期通期連結業績予想数値の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 588,300	百万円 65,300	百万円 60,500	百万円 37,500	円 銭 175.79
今回修正予想 (B)	622,700	63,800	58,600	23,900	113.12
増減額 (B - A)	34,400	△1,500	△1,900	△13,600	—
増減率 (%)	5.8	△2.3	△3.1	△36.3	—
(参考) 前期実績 (2018年3月期)	569,519	66,645	62,286	36,025	168.87

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、2018年3月期の1株当たり当期純利益を算定しております。

3 2019年3月期通期個別業績予想数値の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 233,600	百万円 50,300	百万円 44,600	百万円 27,800	円 銭 130.32
今回修正予想（B）	232,100	49,300	43,300	28,900	136.79
増減額（B－A）	△1,500	△1,000	△1,300	1,100	－
増減率（％）	△0.6	△2.0	△2.9	4.0	－
（参考）前期実績 （2018年3月期）	222,356	50,167	44,089	23,102	108.30

（注）当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、2018年3月期の1株当たり当期純利益を算定しております。

4 修正の理由

（1）第2四半期累計期間（連結）

営業収益については、レジャー事業において、上半期の猛暑や台風等の天候不順による出控えにより入場者数減少に伴う減収要因があったものの、その他事業において、工事の進捗が順調に進んだことや新規案件の受託等により増収となり、営業利益も増益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、見込んでいた減損損失額が減少したこと等により増益となりました。

（2）通期（連結）

営業収益については、上半期の猛暑や台風等の天候不順による出控え等により減収要因があるものの、株式会社東武ストアの連結子会社化等により増収と見込んでおります。営業利益については、運輸事業における動力費および燃料費、その他事業における労務費、材料費等原価の高騰の影響を受けて、減益と見込んでおります。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益の計上を見込むものの、連結子会社の事業再編にともなう減損損失の計上等により減益となる見通しです。

（3）通期（個別）

営業収益については、鉄道事業における上半期の猛暑や台風等の天候不順による出控えや、開発事業における分譲マンションの販売計画の見直し等により、減収と見込んでおります。一方で、当期純利益は、投資有価証券売却益の計上等により増益となる見通しです。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により上記予想値と異なる可能性があります。

以 上